

「使用済燃料直接処分に関わる社会環境等」研究専門委員会報告
—最終報告書をとりとめて—

Final report from the Research Committee on the social acceptance of spent nuclear fuel disposal

(1) 趣旨説明

Purpose explanation

鳥井 弘之¹

¹テクノ未来塾

1. 本研究専門委員会を巡る社会的状況

- 原子力委員会が 2012 年に直接処分を核燃料サイクルの選択肢と位置づけ
- 政府は 2015 年 5 月に特定放射性廃棄物の最終処分に関する基本方針を改訂

2. 研究委員会の検討経緯

- 全 5 回の準備会合；2012 年 11 月～2013 年 3 月
- 都合 45 回の研究委員会開催；2013 年 5 月～2017 年 3 月
- 日本原子力学会年会に於ける企画セッション
(2014 年春・秋、2015 年春・秋、2016 年春、2017 年 春)
- 外部との意見交換；2016 年 11 月のサイエンスアゴラでトークセッション開催
- 若手の参加；オブザーバーではあるが学生や若手研究者の参加もあった
- 有識者からのヒアリング；地層処分の専門家 原子力政策の専門家、核不拡散の専門家、倫理問題の専門家、日本語の専門家、原子力広報経験者、市民との対話の経験者など 8 名の方からのヒアリングも実施した。

3. 研究委員会の繰り返し議論された論点について

- 全量再処理政策と直接処分検討の関係について
 - ・ 核燃料サイクルにおける直接処分の位置づけについて
 - ・ ガラス固化体と直接処分の技術的・社会的相違点について
- 処分問題に共通する論点課題として以下の論点にも議論が集中した
 - ・ 広報活動と、求められるコミュニケーションの違いについて
 - ・ コミュニケーションや意志決定に於ける政治が果たすべき役割について
 - ・ 世代間の公平、将来世代に対する現世代の責任とは、現世代とは、など。
- 原子力全般に関わる事項について
 - ・ 社会が原子力施設を受け入れやすくなる環境の整備について
 - ・ 原子力に於けるコスト試算のあり方について

4. 本企画セッションの趣旨

- 研究委員会の最終時期を迎え、最終報告書のとりまとめに取り組んでおり、繰り返し議論した論点について学会員の皆さんに紹介し議論を深めたい
- サイエンスアゴラに於ける議論を紹介し、一般の方が処分問題をどう受け取っているかを紹介したい
- 可能ならこの場の討論を次につなげたい。

¹Hiroyuki Torii

¹New Technology 21